慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	プラトン哲学をどう読むか（9月28日 三田キャンパス東館6階G-SEC Lab)
Sub Title	How to read a Platonic dialogue
Author	北村, 直彰(Kitamura, Naoaki)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.14, (2010. 12) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000014-0031

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

～プラトン哲学をどう読むか～
How to Read a Platonic Dialogue

（9月28日　三田キャンパス東館6階G-SEC Lab）

2010 年 9 月 28 日、Samuel Scolnicov 名誉教授（エルサレム，ヘブル大学）を三田キャンパスにお招きし、「プラトン哲学をどう読むか」（“How to read a platonic dialogue”）というタイトルでご講演いただいた。Scolnicov 教授はプラトンを中心として古代ギリシア哲学を専門的に研究され、とりわけプラトンの教育論や対話篇『パルメニデス』などに関する論文・著作を数多く発表されている。また、1998 年から 2001 年にかけては国際プラトン学会の会長も務められた。

本講演では、高密度の哲学的議論が「対話篇」という叙述スタイルで展開されたプラトンの著作がもつ特有の「論理」や文学性に焦点があてられ、プラトン対話篇の読解がはらむ固有の困難が論じられた。一方で、対話におけるその都度の状況・文脈をつねに適切な仕方で考慮することにより、プラトン対話篇から非常に有益な洞察を学ぶことができる、という点も強調された。

純粋な研究対象としての「プラトン対話篇」は古代ギリシア哲学研究の枠内に限られるとはいえ、その汲めども尽きない魅力が人文・社会諸科学に広範な影響を与えつづけていることは周知のとおりである。本講演会にも、プラトン研究・古代哲学研究という分野の枠を超えて多彩な領域からたくさんの聴講者が集まった。また、質疑応答の時間には多くの質問が寄せられ、予定の終了時刻を過ぎても大変活発な議論が交わされた。本講演会を通じて、プラトン対話篇の投げかける問題とそれを読み解く試みとがきわめて大きな射程と意義をもつこと、そして、そうした対話篇が今なお多くの人々の関心を惹きつづけているものであることがあらためてはっきりと認識されたといえる。

（北村直彰）

On September 28th, Dr. Samuel Scolnicov, Professor at The Hebrew University of Jerusalem, was invited to give a lecture on “How to read a platonic dialogue”. The lecture was followed by active discussions.

講演会

Bob Hale 教授講演会　What Is Absolute Necessity?
Lecture by Professor Bob Hale : What Is Absolute Necessity?

10月28日
三田キャンパス
東館4階セミナー室

2010 年 10 月 28 日に、英国シェフィールド大学から Bob Hale 教授をお迎えし、“What Is Absolute Necessity？” という題目でご講演いただいた。Hale 教授は、数学の哲学を中心に、言語哲学、形而上学、メタ倫理学といった幅広い分野で活躍されており、特に、ニューヨーク大学の Crispin Wright 教授と共に数学の哲学における論理主義（フレーゲ主義）の再評価に多大な貢献を果たされたことで知られている。講演会当日は哲学を含む様々な分野から 30 名を超える参加者が集まり、Hale 教授の最新の研究動向に対する国内の関心の高さをうかがわせた。

本講演は、Hale 教授の研究のもう一つの柱を成す、必然性の概念に関するものである。必然性やその対概念である可能性の概念の解明は、アリストテレス以来哲学において中心的なテーマであり続けてきただけでなく、「必ず～である」や「～であるということがありうる」といった言葉を用いて表現される日常的思考の論理を解明する上でも本質的な重要性を有している。Hale 教授の狙いは、この必然性概念、その中でも特に「論理的必然性」や「法則的必然性」といった様々な種類の必然性を理解する基礎となる「絶対的必然性」の概念に実質的な解明を与えることである。Hale 教授は、まず絶対的必然性についての三つの理解を提示し、そのうちの二つが絶対的必然性を単なる論理的必然性と同一視してしまう点で不満足なものだと論じた。こうした議論を受けて Hale 教授が擁護するのは、残された一つの理解、すなわち反事実的条件法に基づく絶対的必然性の理解である。さらに Hale 教授は、絶対的必然性とその他の必然性、とりわけ論理的必然性や数学的必然性、そして「対象の本質に基づく必然性」と規定される形而上学的必然性との関係について新たな観点から明確化を行った。こうした Hale 教授の議論は会場に大きな刺激を与え、講演後には予定時間を超過するほどの活発な議論が Hale 教授とフロアとの間に交されることとなった。

（鈴木生郎）

On October 28th, 2010, Professor Bob Hale gave a lecture entitled “What Is Absolute Necessity?” Professor Hale elucidated the conception of absolute necessity, and clarified the relation between absolute necessity and other important kinds of necessity, i.e. logical, mathematical and metaphysical necessities.